道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

私のパリダカ2000の完走メダルは、今年のより一回り小さかった！　喜びはおんなじ♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

この2月1日、松本の我が家カフェは、「ダカールラリー」の熱気に包まれていました。48年前にフランス人によって始まった砂漠地帯を走る世界で一番過酷なモータースポーツの代名詞（旧パリ・ダカール・ラリー）。今年はサウジアラビアを舞台に15日間約8千キロで繰り広げられましたが、日本人の参加は、四輪、トラック、バイク部門で1台ずつだったそうです。そのバイク部門に初参加した藤原慎也さん（36歳）は、このエッセイにも幾度か登場している兵庫県の藤原ファミリーの次男で、トライアル競技の国際A級で競技生活25年というベテラン。ここ3年間は過酷な国内外のエンデューロやアフリカのラリーに果敢に参戦していたお陰でテクニカルに速さが加わり、今や最も入賞に近い日本を代表するライダーの一人です。その彼が、なんと帰国後初の報告会をしにカフェまで来てくれたのでした。

なんでこの小さなカフェに？この厳冬期に？と思ったのですが、「いっぱい応援してくれたから」だったようです。その実力とやる気に多くのスポンサーがつき、多方面のメディアで参戦が取り上げられていた慎也さん。でも参加費とチームサポート料で1200万円、バイク購入1台700万円、直前のテストとトレーニング（モロッコラリー参戦）で500万円かかったそうで、私が出た頃からは4倍と、エントリーだけでも大変です。そんな状況もあって昨年末にクラウドファンディングを始めると、支援者400人で500万円も集まりました。「みんなで応援しよう」と私もシェア。ラリーがスタートしてからは、連日のように彼や仲間やメディアがアップしたものを自分の経験と重ね合わせて掲載しましたが、その反響の凄かったこと。違う分野やバイクに乗らない知り合いから、幾度も「ダカール走っている人頑張っているね」「ゴールするといいね」と声を掛けられ、驚く日々でした。

中心にあったのは、慎也さんの恐るべき頑張りでした。本人曰く「多くの困難があり、こんなに険しく、これほど長いレースは人生で初めて」。普段は決して辛いことを口にしないのに、「過酷すぎる」という言葉が飛び出すほど壮絶な闘いだったようです。マシンやチーム体制は完璧。が、スタート直後は高順位で走っていたものの、2日目に10メートル級の砂丘からジャンプして眼底骨折1カ所。3日目に内臓を打って3日間の血尿。5日目のクラッシュでは岩に叩きつけられて鎖骨骨折。10日目のクラッシュで再び眼底骨折1カ所という普通ならリタイアという場面が次々とやってきました。が、彼は諦めません。それらを抱えながら、抑えの走りで見事55位で初完走したのです。

SNS環境が整っていたのと、伝えたいという彼の思いから、ラリー（バイク部門）史上一番多い発信を続けていた慎也さん。数百キロ走ってSSゴールで、「コースはこんな感じで大変でした。でも大丈夫。ここから何百キロ移動して今日のゴールを目指します」とレポートし、最後に画面に向かって「ニコッ」。この砂まみれのニコッの虜になった私。2000年のダカールラリーで毎夜レポートしていたのでその大変さとやりがいが分かり、彼の並みならぬ闘志に感動が止まりません。怪我をしながらも笑ってゴールする彼は、現場でも「サムライ」と紹介され、大人気者だったようです。開催国だけでなく各国で流れる動画などの情報は、どんどん拡散され、ダカール期間中の合計再生回数は1590万回というとてつもない数になっていたとか。

日本でも今や「時の人」。帰国時に「すぐにレイコさんのお店に行こう」となったそうですが、これが冬でなかったら、大変なことになっていたでしょう。今回も「公民館でやるから各国で流れる動画などの情報は、どんどん拡散され、ダカール期間中の合計再生回数は1590万回というとてつもない数になっていたとか。

日本でも今や「時の人」。帰国時に「すぐにレイコさんのお店に行こう」となったそうですが、これが冬でなかったら、大変なことになっていたでしょう。今回も「公民館でやるから各国で流れる動画などの情報は、どんどん拡散され、ダカール期間中の合計再生回数は1590万回というとてつもない数になっていたとか。

日本でも今や「時の人」。帰国時に「すぐにレイコさんのお店に行こう」となったそうですが、これが冬でなかったら、大変なことになっていたでしょう。今回も「公民館でやる

ナビはもちろん、砂に隠れた岩や200キロも続く涸れ川（ワジ）、砂丘郡に翻弄されるラリー。2輪のトップ争いの最終リザルトが2秒差だったことでも話題に。

毎日ゴールの度にホンダCRF450 RX Rallyを横に動画を配信した慎也さん。負傷して走った距離は、5千キロだった。

カフェで熱心に聞き入るファンたち。人生初の骨折は、手術なしで自然完治となった（丈夫！）。

建築の工房を引き継いだ兄の由樹さん、トライアルを子供たちに教えた父の邦彦さん（元在来工法の建築士・旧車マニア）、夢中でラリーを追った母の晶子さん、最初は控えめな存在だったという慎也さん。全力で家族を支え合う日本一の家族だ♪

ポディウムで掲げられた3枚のフラッグと集まったファンたち（約半分）。日野チームの監督さんも駆けつけてくれました。

九州の散歩道

人吉球磨で「三十三観音めぐり」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

熊本県南部に広がる人吉球磨地方は、鎌倉時代から700年にわたって相良氏が統治してきた歴史を持っています。これだけの長期間にわたる統治は日本の歴史の中でもめずらしく、その間に地域独自の文化が醸成されていきました。相良氏は新しく征服した地域でも土地に根付く文化や心のよりどころを大切にしたため、民衆は領主を信頼するようになり、長く統治の時代が続いただけでなく、古くからの文化や風習が守られて現代に受け継がれることになりました。

こうした現代にも受け継がれている地域文化のひとつが「相良三十三観音めぐり」です。地域の中から33の観音を選び、選定された場所をめぐり終えると人吉球磨地域を一周するようになっています。正確には22番と24番に2つの観音堂があるので35の札所があり、順番通りに回っても、順不同に回っても構わないときれています。

この巡礼は江戸時代に始まったもので、人吉藩の家老・井口武親（たけちか）が西国の三十三ヶ所巡礼を手本にして三十三観音を選んだとされます。巡礼は毎年春と秋の彼岸の時期に行われ、普段は非公開の観音様もこの時期だけは一斉開帳されます。また観音様を選んだ際に、それぞれの観音様の名前を詠み込んだ御詠歌が作られ、参拝者は御詠歌を唱えながら巡礼する風習があります。

選ばれた観音様はもともと地域で大事にされていたものなので、作られた時期や形式もバラバラです。平安時代のものもあれば、近年新たに作り直されたものもあります。一番札所は相良氏の菩提寺「願成寺」という由緒正しい場所にありますが、地元のお堂で大切に守られてきた観音様もあります。めぐりながら個性の違いが楽しめます。

観音巡礼の際には「お接待」と呼ばれる地域住民によるもてなしが行われ、お茶や漬物、ぼたもちなどがふるまわれます。手作りの素朴な味わいに加えて、地域の人々と交流するのも楽しみのひとつです。

人吉球磨地方には歴史を感じる文化や建物が数多く残され、山地に囲まれた豊かな自然環境があります。普段はのんびりした景色が広がる地域ですが、日本三大急流のひとつとされる球磨川の氾濫や豪雨災害には度々悩まされてきました。2020年7月の豪雨災害では、支流脇にあった老人ホームが水没する被害が起きています。度重なる災害から復興を遂げる人吉球磨地方の住民にとって、大切に守られてきた観音様は心のよりどころになっているのかもしれません。

（写真提供：熊本県観光連盟）

白衣に編笠で御詠歌を唱えながら回る

6つの観音様が祀られる32番札所

道路交通情報

◇道路緊急ダイヤル　#9910
◇NEXCO東日本　https://www.e-nexco.co.jp/
◇NEXCO中日本　https://www.c-nexco.co.jp/
◇NEXCO西日本　https://www.w-nexco.co.jp/
◇首都高速　https://www.shutoko.jp/
◇阪神高速　https://www.hanshin-exp.co.jp/
◇本四高速　https://www.jb-honshi.co.jp/
◇日本道路交通情報センター　https://www.jartic.or.jp/

道路ニュースの宛名変更・発送停止について

○**宛名変更**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《変更後の住所》、《「社名」または「氏名」》、《宛名変更》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。

○**発送停止**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《「社名」または「氏名」》、《発送停止》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。

【宛名記載例】
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-3-1　尚友会館6F
全国道路利用者会議　様
No.0000　または　**U-00000**　1部

FAX　03-3501-5612
E-mail　the_road_news@road-jhuc.jp